

いきいき同窓会

川柳同好会

令和5(2023)年11月15日(水)

川千家(かわちや)川柳教室 講師 上鈴木春枝

江戸時代の中期、前句付の点者(てんじや…選者のこと)として登場したのが、柄井川柳(からいせんりゅう)さんでした。

前句付(まえくづけ)とは、「7・7」の短句(たんく)に、「5・7・5」の長句(ちようく)をつけることです。⇒この「7・7」が川柳の課題となり、「5・7・5」が現在の川柳です。川柳はリズムが大切です。

柄井川柳は宝暦7年(1757年)、40歳の時に点者としてスタートし8月25日に万句合の第1回開キ(発表)を開始しました。入選作品は『川柳評万句合(せんりゅうひょうまんくあわせ)』の刷り物で発表され、明和2年(1765年)には『誹風柳多留(はいふうやなぎだる)初篇』が刊行され、それは167篇まで続きます。

「7・7」

「5・7・5」

- ① 迷惑な事 迷惑な事                      取次ぎに出る顔のない煤払い
- ② ありがたい事 ありがたい事 → 妙薬を開ければ中は小判なり
- ③ こわい事 かなこわい事 かな → 雷をまねて腹掛けやっとなせ
- ④ 離れこそすれ 離れこそすれ → 子が出来て川の字なりに寝る夫婦

令和4年(2022年)

12月 風呂

令和5年(2023年)

1月 正月

2月 恋

3月 卒業

4月 新人

5月 五月

6月 雨

7月 夏休み

9月 味覚

10月 紅葉

11月 林檎

動詞や形容詞の課題にすると、さらに作品が広がっていきます。

課題の文字を作品に入れる場合は「詠み込む」と言い、入れない場合は、課題の意味を表現して作ります。

課題「焼く」

詠み込んだ句 「少子化の塾に日焼けの子がいない」

詠み込まない句 「灰にする写真はどれも笑ってる」

課題「あせる」

詠み込んだ句 「あせることもう無い墓は手配済み」

詠み込まない句 「ライバルの出世を耳に病みつづけ」